

令和7年度 夏季研修

「大空へはばたこう～自立への挑戦～ 入所施設から地域へ」

令和7年7月24日(木)、社会福祉法人 創思苑 クリエイティブハウスパンジーⅡ 管理者の西野貴善様に来ていただき、映像の視聴やグループワークも交えて、講義をしていただきました。校内外合わせて100名を超える先生方が受講されました。



●法人としてめざしてきたこと

- ・自分で決める(自己決定)のための当事者活動の支援
- ・どんなに障がいが高くても地域で暮らす支援

●多様な暮らし方

- ・27か所のグループホームでおよそ87人が暮らしている。
- ・障がいの重い方が9割。
- ・重度訪問介護を利用して1人暮らしをしている方や、医療的ケアが必要な方、パートナーと暮らす方。
- ・親が高齢、亡くなった方(その方たちは365日の利用)、訪問医療や訪問介護を利用している方。



●映像を視聴してグループワークがありました。

映像では、クリエイティブハウスパンジーのサポートのもと、地域での生活(1人暮らし)を始める利用者さんの様子や、クリエイティブハウスパンジーの支援者さんの関わりの様子など、2年間ほどの様子を視聴しました。

●グループワークの共有がありました。

- ①現場に持ち帰れる支援のアイデア
- ②映像から感じたこと・学んだこと・質問

○地域での生活を大切にされているのがわかった。
⇒日頃から地域の人とのコミュニケーションを大切にしている。



○子どもたちの将来の姿や選択肢として、こういった道があると知れてよかった。

○支援者をご本人と関わる際に、安心できる距離感を大切にしておられ、徐々に心を許しておられるように思った。今後、そういう視点を大切にしていきたい。



○支援がとても手厚く、ご本人が安心されるまで待っていただけるように感じた。どのくらいの期間をかけて関わっていただけるのですか？

⇒1～2年間での移行。
本人も、支援者も安心できるまで時間をかける。



★関わり方のヒント★

1. 1人の支援者から(関係性を大切にする)。
2. その場にいる安心感を持てることをめざす。
3. 関係性の広がり(チームで関わる)。
4. 支援のスマールステップ(変化は1つずつ)。
5. 本人にあった暮らしを創る。

★さいごに★

- ・当事者は変化する(可能性を信じる)。
- ・支援する側が変わる。
- ・人とのつながりの中で生きていく。
- ・人生は続いていくこと。